



もっと
すごい!

PORT OF HACHINOHE



2018年7月発行
NO. 45



八戸港だより



TOPIX

- P2 ・新造船「シルバーティアラ」が就航
 - ・八戸市と苫小牧市との連携に関する協議開始
- P3 ・台湾航路の開設に向け、ポートセールスを実施
 - ・八戸市海外経済協力員レポート
- P4 ・2017年八戸港コンテナ貨物取扱量
- P5 ・黒にんにくサミット2018を開催
 - ・八戸タウンミーティングが開催
 - ・みなと通信

- P6 ・フィリピン販路開拓活動に参加
 - ・新興市場のベトナムで3回目の地場産品フェアを開催
- P7 ・貿易相談の傾向と輸出のご支援 (ジェトロ青森)
- P8 ・航路情報、各お問い合わせ先

新造船「シルバーティアラ」が就航

文 / 川崎近海汽船株式会社 八戸支社長 五戸 佳浩 このへ よしひろ

「シルバーティアラ」(総トン数8,543ト)は、「シルバークイーン」の代替船として広島県の内海造船で2017年7月に竣工し、2018年4月25日から、待望の八戸～苫小牧航路での運航を開始しました。当航路においては、2013年の「シルバーエイト」以来の新造船投入です。

船内は「宝石のように凛と輝くティアラ」をイメージしたデザインで、快適性とプライバシーを重視した設計となっています。

オーシャンビューを満喫出来るビューシート、個室を大幅に増やし、赤ちゃんルーム等のスペースも充実、プロムナードデッキやエスカレーターも設けました。

八戸～苫小牧航路は、1973年4月25日の航路開設以来、45年間に亘り、東北と北海道を結び物流・人流の大動脈として、また、地域の生活を支える重要なインフラとして、その役割を果たして参りました。

2006年12月に現在の4隻体制に移行して以来、年間の輸送量は、トラック16万台、乗用車6万台、そして乗客は35万人に達しております。

フェリーで結ばれたご縁で、八戸市と苫小牧市は都市間連携に向け動き出しました。両市の連携成功に向け、陰ながら協力させていただく所存です。



八戸市と
苫小牧市をつなぐ
期待の宝石じゃ!



■八戸市と苫小牧市との連携に関する協議開始

文 / 八戸市商工課 磯谷 悠太 いそや ゆうた

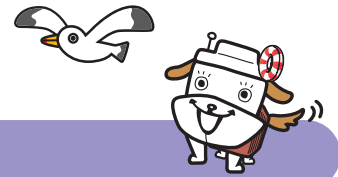
フェリー就航45周年の節目を迎えた本年4月26日に、八戸市長が苫小牧市長を訪問し、貿易・観光・スポーツを柱とした都市間連携について、協議を申し入れました。

今後、両市は、本年7月下旬に、八戸市における協定締結を予定しており、八戸港・苫小牧港両港の利便性を更に高めるための連携強化を図ります。

貿易に関する項目では二港連携によるポートセールスを主な内容としており、今後はスケール面を活かした提案を船会社に行うことで、台湾、東南アジアへの航路開設の可能性を探る方針です。



岩倉苫小牧市長に連携協議の申出をする小林八戸市長(右)



台湾航路の開設に向け、ポートセールスを実施

文 / 八戸港国際物流拠点化推進協議会 事務局書記 磯谷 悠太

八戸港国際物流拠点化推進協議会と八戸市は、2012年4月に廃止された東南アジアコンテナ定期航路に代わる航路開設を主な目的として、2018年1月15日～20日の期間、中華人民共和国(上海市・江蘇省(蘇州市・張家港市))において、「八戸港中国ポートセールスミッション2018(団長:八戸市長)」を実施しました。

上海市では、2016年7月に八戸港で集荷サービスを開始した「SITCコンテナラインズ」の上海本社を初めて訪問し、薛明元社長に対し、県・市・八戸商工会議所・港湾関係者・荷主企業の連名による「航路開設に関する要望書」を提出するとともに、中国及び韓国航路を運航する南星海運(株)と長錦商船(株)の上海事務所を訪問し、航路の維持及び利用拡大を要望しました。

また、八戸市海外経済協力員の工藤氏(下記レポート寄稿者)が運営会社代表を務める上海市内の和食レストランにおいて、「八戸港レセプション」を開催し、船会社・港湾関係者・荷主企業等からなる約100名の参加者に対して、八戸港の優位性をPRしました。

その他、日本貿易振興機構(JETRO)上海事務所、外務省在上海日本国総領事館を訪問し、現地の最新事情について意見交換しました。

視察では、8年連続世界コンテナ取扱量1位を誇る上海港や、世界有数の河川港である張家港港のほか、愛発科真空技術(蘇州)有限公司、上海高島屋百貨有限公司の視察を実施いたしました。

今後も積極的なポートセールスを展開し、八戸港の振興に努めて参ります。



小林八戸市長が薛明元社長に航路開設の要望書を提出



大盛況の八戸港レセプションの様子

八戸市海外経済協力員レポート

「中国の今を感じる」

文 / 八戸市海外経済協力員(上海市) 工藤 浩成



私が初めて上海を訪れたのは、ちょうど20年前の1998年初夏、ライチが美味しいこの季節だった。当時の中国はまだ日本の1/5、アメリカの1/10程度の経済規模で、私なりに日本の優位性、中国はまだまだかなと心に思いながら、古き良き中国を感じつつ、混沌ながらパワフルな街や人や車の流れ、安い物価と財布の中の汚い紙幣に目を丸くしていたものだった。あれから20年、中国のGDPは世界2位、日本の2.5倍とあっという間に追い越した。

ここ数年で目を見張るのは、やはり急速なIT産業の発展、イノベーションだろう。昨年頃から、高速鉄道、アリペイ(モバイル決済)、ネット通販、シェア自転車が新・4大発明と呼ばれている。さらに、ユニコーン企業(創設10年以内、評価額10億米ドル以上、未上場、テクノロジー企業といった4つの条件を兼ね備えた企業を指す。)は、2017年12月時点で世界で220社存在し、アメリカ企業109社50%、続いて中国企業59社で27%、日本はわずかにメルカリ1社のみという。

今の中国経済の成長をけん引しているのは正にこれらの新興企業に代表されるニューエコノミー分野であり、特にモバイル決済(支付宝、微信支付など)は、タクシー・配車アプリ、電車、レストラン・出前、コンビニ・スーパー、シェア自転車、公共料金、Eコマースなどのあらゆる商取引を便利に、簡単にと一変させ、あらゆるひとが、あらゆるところで最先端技術を日常的に使うイノベーションが身近に起こっている。なんと、道端の屋台や焼きいも屋までキャッシュレスであるほどだ。おつり要らずで量り売りに便利とのことらしい。

近未来と悠久の歴史と生活が同居する今の上海、さて、今も美味しいこの季節だけのライチを買いに行こうかな。シェア自転車と支払いはもちろん携帯で…。



八戸港コンテナ貨物取扱量 3年連続50,000TEU超

2017年 八戸港コンテナ貨物取扱実績

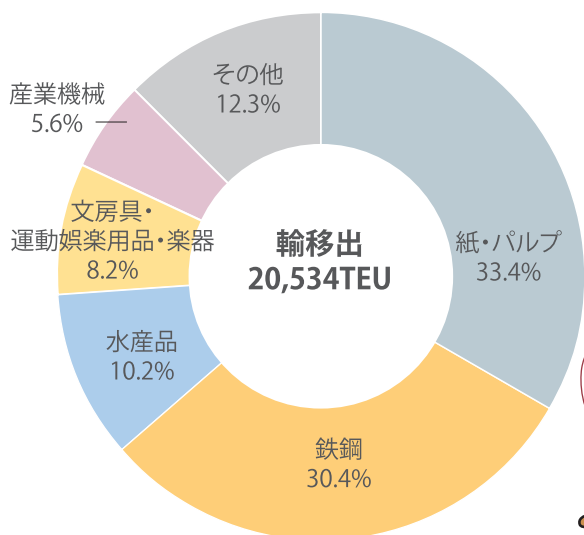
八戸港のコンテナ貨物取扱量は、1994年の航路開設以来、順調に推移してきており、2017年は、空コンテナ込みで、取扱量56,429TEUとなり**3年連続50,000TEUを超えました**。また、実入りコンテナは、**過去最高の取扱量35,949TEU**となり、これまで最高記録であった2016年比で、**約400TEUの増加**となりました。

貨物取扱量の増加は
八戸港の誇りじゃ!

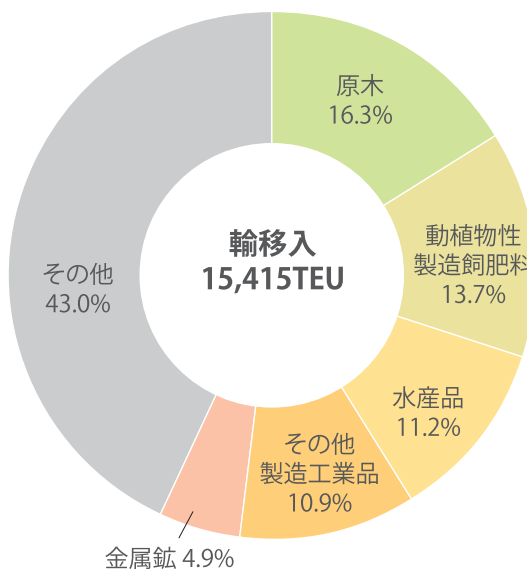


2017年 コンテナ貨物品種別内訳

2017年のコンテナ貨物の品種別内訳(コンテナ個数での割合)を見ると、輸移出では紙・パルプの33.4%、輸移入では原木の16.3%が第1位となっております。

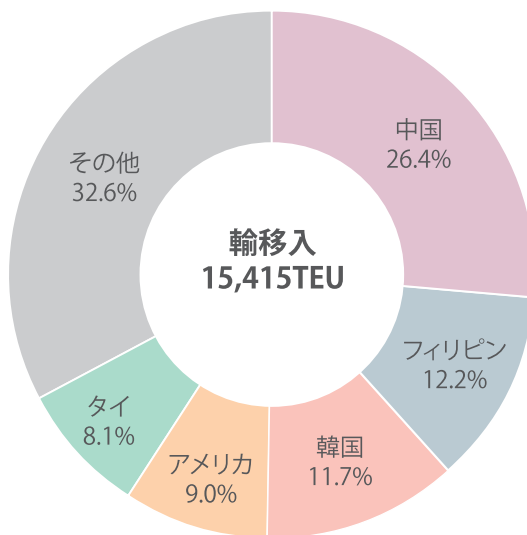
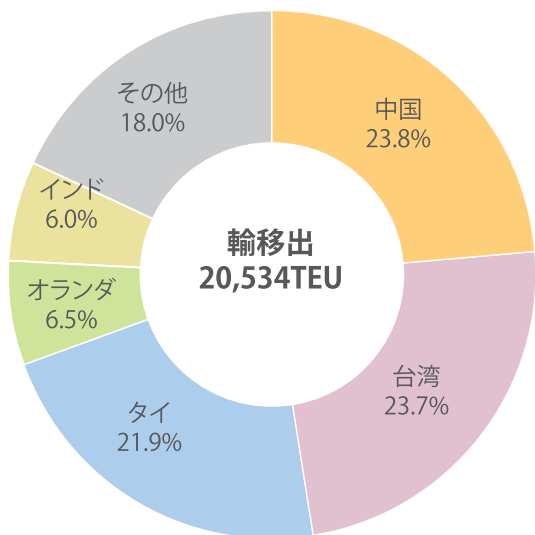


初めて
紙・パルプが
1位になった
ワン!



2017年 コンテナ貨物国別内訳

国別の内訳は、輸移出・輸移入ともに中国が1位となり、以下、輸移出では台湾、タイが続き、輸移入ではフィリピン、韓国と続きます。輸移出・輸移入ともにアジア各国との取引が半分以上を占めていることを示しております。



作成：八戸港国際物流拠点化推進協議会 ※端数処理の関係で合計は100になりません。

第3回世界黒にんにくサミットin八戸2018を開催します

文 / 協同組合青森県黒にんにく協会 黒にんにくサミット準備委員会秘書長 古川 博史 ふるかわ ひろし

海外25か国へ展開する「青森の黒にんにく®」。開発から僅か数年で全米で販売されるなど、短期間で広く海外進出を果たした黒にんにくですが、今日では、毎年、世界中から黒にんにくに関わる方の他、研究者や料理人、一般市民の方々が集まり、八戸市で世界黒にんにくサミットが行われるまでの盛り上がりを見せています。

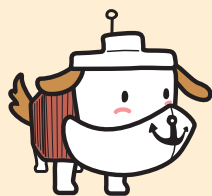
「青森の黒にんにく®」がブレイクしたきっかけの一つに、2015年の日・ルクセンブルク首脳会談があります。その晩餐会で、ベッテル首相が安倍首相に青森の黒にんにくを用いた料理を提供。これに感動した安倍首相が帰国後、内外情勢調査会で世界に広がる青森の黒にんにくについて報告したのです。この年、それまで100億円前後で伸び悩んでいた青森県のニンニク産出額は、174億円へ急増し、翌2016年には184億円にまで伸び、農家の方々の所得向上にもつながりました。

今年の世界黒にんにくサミットには、ブレイクのきっかけをくれた日・ルクセンブルク首脳会談晩餐会の担当シェフ レナト ファヴァロ Renato Favaroさんが来八し、参加者の皆様に料理を提供します。この他、フィリピン、バングラデシュ、そしてイギリスでの黒にんにくの取組や、東北医科薬科大薬学部佐々木健郎教授をはじめ、黒にんにくの健康機能性について研究する方々からの発表と、内容盛り沢山。皆様のご来場をお待ちしております。一般の方の参加も大歓迎です。

日 時 2018年9月6日(黒にんにくの日)～9月7日

場 所 八戸プラザホテル アーバンホール

問合せ先 協同組合青森県黒にんにく協会
(TEL.0178-56-5317)



今年も
黒にんにくの
魅力を伝える
ワン!



昨年の世界黒にんにくサミットに来日した
セルジオ・マリア・トゥートニコシェフ (イタリア)

八戸タウンミーティングが開催

文 / 八戸市商工課 いそや ゆうた 磯谷 悠太



タウンミーティングは、海事振興連盟の主催によって、海事都市の活性化等を図るため、2006年より全国各地域の海事関係者等と国会議員との意見交換の場として開催されています。

2017年12月には、東北地方では4箇所目となるタウンミーティングが八戸市で開催されました。会議には約100名の関係者が参加し、終了後、八戸港の視察が行われました。順調にコンテナ取扱量が増加している八戸港は、注目度もますます上昇しております。



みなと
通信

八戸港管理所では、津波発生時の荷役重機保管場所として、八太郎地区の緑地高上げ事業を2015年に着手し、2017年10月に完成しました。施設の概要は延長L=1.19km、高さTP+5.40mで、レベル1津波に対応できる高さとなっています。津波による被災後に、退避した重機を使用することで物流機能を早期に回復するものです。



青森県三八地域県民局地域整備部八戸港管理所 TEL:0178-21-2280 FAX:0178-21-2370

フィリピン販路開拓活動に参加

文 / 八戸港国際物流拠点化推進協議会 事務局書記 いそや ゆうた 磯谷 悠太

当協議会では、2017年10月にフィリピン共和国マニラ市へ渡航し、ホタテ・サバ・イワシを中心とする県産水産品の販路開拓活動に参加しました。

マニラ市での活動は、前年に引き続き2年目で、主催する青森県農林水産物輸出促進協議会水産部会(事務局:青森県国際経済課)の会員と共に、輸入業者4社との商談・意見交換やスーパーマーケットでの市場視察を通じて、現地ニーズや課題の調査を行いました。

フィリピンでの更なる取引拡大を目指し、現在も輸入業者への商品提案を継続しております。

フィリピンの
販路の拡大、
期待大だワン!



新興市場のベトナムで3回目の地場産品フェアを開催!

文 / Japan Aomori Food Fair 実行委員会 事務局員 わしま まさひこ 和島 将彦

2018年1月10日~15日の期間、ベトナム最大の経済都市ホーチミンにおいて、県内の自治体(八戸市、青森市、弘前市、むつ市、おいらせ町)と(株)みちのく銀行、(株)青森銀行が連携し、地場産品の販路拡大を目的とした「Japan Aomori Food Fair 2018」を開催しました。3回目となる今回の事業では、水産加工品や菓子類、日本酒などの県内食品業者15社が参加し、3日間の物産展のほか、商談会やレストランプロモーション、市場視察を行いました。

物産展では、会場のホーチミン高島屋での初の日本物産展だったこと、また、過去の開催と異なり、市内中心部での開催となったことから、期間中を通じて多くの人で賑わい、最終日には全商品が完売し、1日当たりの売上額が前年比1.5倍になるなど、大盛況のうちに終了しました。初日には、八戸市長、青森市長、むつ市長によるトップセールスを行い、現地の人の声を直接聞きながら、積極的に地場産品のPRをしました。現地での小売価格は関税や輸送コストのため、日本の2~3倍の価格となりますが、改めて青森県産品の将来性に大きな手応えを感じました。

商談会では、前年の3倍を上回る過去最大数の現地バイヤー32社との商談を実施し、複数の商談が成立、または交渉継続となっています。さらに、6店舗もの現地日本食料理店でレストランプロモーションを同時開催し、多くの来店客から、その鮮度や味に高い評価を得ることが出来ました。

親日的な国民性を持つベトナムは、1億人に迫る人口と平均年齢30歳という若い人口構成、6%以上の安定した経済成長率など、日本にとって大変有望な市場です。これまでに得た成果を踏まえながら、引き続き、ベトナムへの販路拡大事業に取り組んで参ります。



オープニングセレモニーでの鏡開き



多くの人でにぎわいました!



八戸市長によるトップセールス

青森の食を
ベトナムに届け
たんじゃ!



物産展全体の様子



いかずきんズも大活躍!



貿易相談の傾向と輸出のご支援 ～海外取引に乗り出す企業を応援しています～

文/ジェトロ青森貿易情報センター 所長 きむら けいいち 木村 慶一

2017年度の貿易統計では、輸出が10.8%増加し、過去最高だったリーマンショック前と同じ10年ぶりの高い水準(輸出総額約80兆円規模)となりました。中国向け輸出が15兆円超と過去最高となり、米国向けを僅かに上回りました。中国は人件費増を背景に、一層の機械化が進み、先端分野のほか金属加工機などで、日本からの輸出増加が目立っています。

ジェトロでは、昨年度全国から約9万件の貿易投資に関する相談を受けました。国別では中国(13.5%)に続き、米国(9.7%)、続いてASEAN諸国(上位10カ国にはベトナム・タイ・インドネシア・シンガポール)のほか台湾・香港・韓国に関する相談が多く、昨年度の傾向としては、インドや年末にEPA交渉が妥結したEUが若干増えています。国内はほぼ全都道府県にある拠点、海外も54カ国70カ所を超えるネットワークを活用し、貿易投資相談のみならず、農林水産物・食品の輸出や中堅・中小企業等の海外展開支援、調査や対日投資誘致などに取組んでいます。

ジェトロ青森は、青森県や八戸市をはじめとした自治体からのご支援を賜りつつ、海外との貿易や投資に関する情報提供をしています。昨年度の貿易相談件数は、輸出に関する相談が大半を占め、457件(前年度比10%増、2016年度:416件。いずれも東北地域では宮城に次ぐ件数)でした。相談対象国の内訳としては、やはり中国、米国が多く、次いでタイ・ベトナム・台湾とアジア圏が相談の主流を占めています。また、輸出をしたいものの対象国が絞れず、一般的な市場情報提供希望や貿易取引に関する基礎情報提供依頼も100件を超える相談がありました。このうち296件と約65%が農林水産物・食品分野に関する相談でした。

日本から米国への輸出では、特に有害物質規制法(TSCA)改正法に関連した照会が急増しました。同改正法が、2016年6月に成立し、同月21日までの過去10年間に製造・輸入された物質の届出を2018年2月までに製造企業等に要求したことを受け、その届出に関する照会が増えたためです。また欧州では、2016年4月に制定されたEU一般データ保護規則(GDPR)につき、2018年5月25日の適用開始を前に相談が増加しました。GDPRに対する具体的な対応方法や自社のサービスが規則に該当するかといった問い合わせをジェトロ全体で多く受けています。

アジアでは、ベトナムで新規の進出相談に加え、ビザの申請や人材の採用など既に進出している企業からの相談

も多く、依然として日本企業のベトナムへの関心の高さが伺えます。カンボジアでは飲食店、食品加工工場を中心とした現地法人設立手続きに関する相談が増えています。タイの相談件数および東南アジアへの輸出に関する相談が減少した一方、日本からの投資相談が増加しています。

米国に輸出している県内の大部分の企業に2017年9月より食品安全強化改正法が適用開始されたため、ジェトロ青森では全国に先駆けて県内事業者の米国食品安全強化法(FSMA)への対応を支援してきました。昨年度は5月に八戸市で開催した食品安全計画策定セミナーをはじめ、米国弁護士によるワークショップ、予管理適格者(PCQI)養成講座など、FSMA関連は勉強会を含めて計6回開催しています。今年度は八戸市が5月下旬に、ジェトロが事務局を担う新輸出大国コンソーシアムで農水産物分野のエキスパートとして全国のFDA査察に対応しているグローバリューションの村井京太氏を講師に迎え、2.5日間のPCQI養成ワークショップを無料で開催しています。これまで水産物やジュースにのみ義務化されていたHACCPは、米国向け加工食品全てにその対象が広がり、製造・輸出企業はPCQI有資格者による食品安全計画の作成が要求されていますので、対象企業はこういった機会を活用し、対応していくことをお勧めします。

その他、貿易実務講座を青森・八戸(次回開催は7/30)・弘前で毎年開催しているほか、海外に販売網をもつバイヤー招請商談会の開催、県内の輸出企業の活動支援としての米国における販売促進、県内で登録された新輸出大国コンソーシアム支援対象企業53社に対し県内15の支援機関と連携した継続的かつ段階別の海外輸出支援などを行なっています。

2018年度の青森県内における新規事業3本柱としては、以下の通りです。

- 1) 県内中堅企業の高度外国人材導入支援(インターン研修実施、企業・学生双方による申込受付中)
- 2) 県インバウンド対EU発信支援(2019年1-2月八甲田樹氷スキーおよび産業視察)
- 3) 産業交流(ルクセンブルクとの果実酒交流)、海外へ挑戦するベンチャー支援(VIVA TECH 5月於パリ等)など

ご関心のある企業の方は、ぜひ当事務所までご連絡下さい。

日本貿易振興機構(JETRO) 青森貿易情報センター

〒030-0802 青森市本町1-2-15 5階 Tel.017-734-2575 Fax 017-773-2877

八戸港コンテナ定期航路就航状況(2018年7月現在)

□ 外航 □ 国際フィーダー

コンテナ航路	船社名(日本総代理店)	集荷代理店	寄港間隔	寄港地
中国・韓国航路	南星海運(株) (南星海運ジャパン(株))	八戸港湾運送(株)	週2便 (月・金)	(NTP航路) 釜山→清水→常陸那珂→小名浜→仙台→ 八戸(月) → 苫小牧→酒田→釜山→蔚山→光陽→上海→寧波→釜山 (RBS航路) 釜山→清水→仙台→ 八戸(金) →釧路→苫小牧→函館→ 釜石→常陸那珂→釜山→蔚山→光陽→寧波→上海→釜山
韓国航路	長錦商船(株)(株)シノコー成本	八戸通運(株)	週1便(火)	釜山→仙台→ 八戸(火) →苫小牧→釜山→釜山新港
北米航路	Westwood Shipping Lines (センワマリタイムエージェンシー(株))	八戸港湾運送(株)	休止中	シアトル・バンクーバー・釜山ほか
国際フィーダー航路	(株)横浜コンテナライン	八戸通運(株)	週1便(金)	横浜・仙台・宮古・苫小牧
	井本商運(株)	八戸港湾運送(株)	週1便(木or金or土)	横浜・東京・苫小牧・仙台
	鈴与海運(株)	八戸港湾運送(株)	週2便(木or金or土)	清水・横浜・東京・苫小牧・仙台・大船渡

主な寄港地と八戸港の所要日数(最短)(2018年7月現在)

寄港地	輸出	輸入	寄港地	輸出	輸入	寄港地	輸出	輸入
釜山(韓国)	6	5	蛇口(中国)	15	13	シアトル(米国西岸)	21	21
光陽(韓国)	9	※	シンガポール	20	20	ニューヨーク(米国東岸)	29	38
蔚山(韓国)	9	※	レムチャパン(タイ)	17	18	バンクーバー(カナダ)	23	19
基隆(台湾)	11	16	マニラ(フィリピン)	18	24	ブリスベン(オーストラリア)	31	21
台中(台湾)	11	16	ホーチミン(ベトナム)	15	15	オークランド(ニュージーランド)	40	28
高雄(台湾)	12	14	ハイフォン(ベトナム)	19	15	サウサンプトン(イギリス)	29	35
香港(中国)	15	13	タンジュンプリオク(インドネシア)	16	22	ルアーブル(フランス)	30	35
大連(中国)	14	11	ムンバイ(インド)	25	25	ブレーメルハーフェン(ドイツ)	32	35
青島(中国)	15	12	ポートクラン(マレーシア)	19	15	ハンブルク(ドイツ)	43	44
上海(中国)	11	9	ドバイ(UAE)	28	22	ロッテルダム(オランダ)	41	42
天津新港(中国)	15	11	タコマ(米国西岸)	21	21	アントワープ(ベルギー)	41	49
寧波(中国)	11	9	ロングビーチ(米国西岸)	16	18			

※光陽・蔚山(韓国)については、釜山にまとめた後に輸入されています。

八戸港ご利用のお問い合わせは次の各社へ!

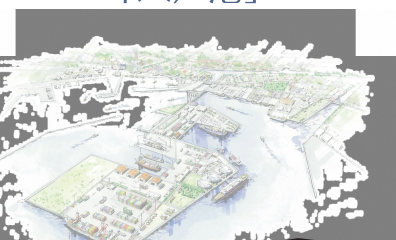
海貨業者

八戸通運株式会社 海運部 (長錦商船(株)、(株)横浜コンテナライン 集荷代理店)	TEL:0178-29-0202	FAX:0178-20-3281
八戸港湾運送株式会社 コンテナ事業部 (南星海運(株)、WSL、井本商運(株)、鈴与海運(株)、インターエイシアライン(株) 集荷代理店)	TEL:0178-29-3177	FAX:0178-29-3130
新丸港運株式会社 営業部	TEL:0178-20-2321	FAX:0178-20-2353
八戸運輸倉庫株式会社 営業部	TEL:0178-28-2401	FAX:0178-28-6976
三八五流通株式会社 八戸区域事業所	TEL:0178-52-7755	FAX:0178-52-7751
日本通運株式会社 八戸支店	TEL:0178-20-3040	FAX:0178-20-3154
ナラサキスタックス株式会社 八戸支店	TEL:0178-21-6000	FAX:0178-21-6050
北日本ポートサービス株式会社 (SITC JAPAN(株) 集荷代理店)	TEL:0178-20-2148	FAX:0178-29-3130

海運会社(国内総代理店)

南星海運ジャパン株式会社【東京都】中国・韓国航路	TEL:03-5843-6100	FAX:03-5843-6110
株式会社シノコー成本【東京都】韓国航路	TEL:03-6278-6032	FAX:03-6278-6038
センワマリタイムエージェンシー株式会社 北米部【東京都】WSL:北米航路	TEL:03-5733-7203	FAX:03-5733-7208
株式会社横浜コンテナライン【横浜市】国際フィーダー航路(横浜)	TEL:045-227-8863	FAX:045-681-8885
井本商運株式会社【神戸市】国際フィーダー航路(東京・横浜)	TEL:078-322-1600	FAX:078-322-1625
【東京営業所】	TEL:03-3593-3911	FAX:03-3593-3918
鈴与海運株式会社【静岡市】国際フィーダー航路(東京・横浜)	TEL:054-354-3100	FAX:054-354-3102
【東京営業所】	TEL:03-3432-7159	FAX:03-3432-0896
インターエイシアライン株式会社【東京都】東南アジア航路(横浜港トランシップ)	TEL:03-3580-6555	FAX:03-3580-6575
SITC JAPAN株式会社【東京都】中国・アジア航路(横浜港トランシップ)	TEL:03-6262-7778	FAX:03-6262-7117
ジャパン・パン・ラインズ株式会社【東京都】小口混載貨物サービス(輸出)	TEL:03-6779-9610	FAX:03-6779-9650

北東北の 国際物流拠点港 「八戸港」



八戸港国際物流拠点化推進協議会 Hachinohe Port Promotion Commission

事務局/ 八戸市商工労働観光部商工課 貿易振興グループ
 〒031-8686 青森県八戸市内丸一丁目1-1 八戸市庁別館5階
 TEL.0178-43-2111(代表) TEL.0178-43-9244(直通) FAX.0178-43-2256
 <E-mail> hppc@hi-net.ne.jp <ホームページ> www.hi-net.ne.jp/~hppc/